

1. 評価結果概要表

作成日平成 19年 7月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	4270401187		
法人名	有限会社 ポラリス		
事業所名	グループホーム イーハートープ		
所在地	〒854-0121 長崎県諫早市有喜町151-10 (電 話)0957-28-6330		
評価機関名	(特)ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年7月25日	評価確定日	平成19年9月11日

【情報提供票より】(19年 4月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	5月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤	1人, 常勤換算 7.55人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分		

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,900 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 78 歳	最低 56 歳	最高 92 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	藤原医院 デンタルクリニック フジワラ 西諫早病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有喜の住宅地、有喜商店街の中心部に建てられた当ホームは、地域の人と共に助け合い、支えあう身近な存在が感じられる場所にある。代表者始め管理者・職員は日頃から地域の方と触れ合う事を大切に考えその機会も多く、認知症に対する理解を求めるとともにグループホームの役割を果たそうと積極的に取り組まれている。地元の方も大変協力的である。代表自らも、地元消防団員として活動を行われている関係から、ホームに対する消防団員の方々の協力的なサポート体制は万全に整っている。今年度の目標を「入院生活を少なくし、日頃の健康管理に気をつけましよう」と計画を立て、地域の人々が気軽に立ち寄ってくれるよう全職員で地域密着型サービスを目指す、意欲的で暖かみあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点から改善計画シートを作成し全員で話し合い、実際の介護を振り返る機会を設ける事で、ケアについての意識向上に繋がる共有が出来ている。前回評価後、契約書に入居者の権利を記載し、金銭管理では、自ら支払いをされる支援をしそれについての確実な家族への報告を行う等、改善課題を早急に取り組まれ評価を真摯に受け入れ、質の向上への熱意が窺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	早い時期から自己評価に対する取り組みを始め、職員がそれぞれの立場から意見・考えを記す事でその結果、総合的な視点から実際の介護を確認し合い、今後に役立てようとする努力が窺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の意義と理解の説明から入り、認知症についての理解とグループホームの役割の理解を求めている。地域密着型サービスとして地域でのサポート体制を深く願ひ、防災訓練等の呼びかけを行っている。その結果、協力的に訓練に参加して頂けるようになった。介護面でも、第三者からの視点でアドバイスを頂き、職員の意識向上に繋がっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入り口に意見箱を置き、苦情・相談を求める用紙「お願い」を備えている。実際に苦情等があった場合は書面で返答し、解決に向けて今後に役立てる体制を整えている。また、外部機関への窓口の体制を備えてその旨を入りに掲示し、運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日頃から密な関係を築く事で、散歩時も声を掛けて下さっている。入居者でなくご近所の方に体調の変化があった時、ホームに相談・支援を求めて来られる等相互で支えあおうとする姿が見受けられる。地域の方も気軽に立ち寄って下さり、消防団も防災訓練に大変協力的である。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地元からの入居者の方が多く、親しみやすい環境にある。「ぬくもり・やさしさ・一人ひとりを大切に」を理念とし、家庭的環境の中、職員の資格を活かしホームが地域の頼りとなる存在になる様、努力をされ、地域と触れ合う事を大切に取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に大きく掲示し、丁寧に温かみある介護を大切にしている。新人職員には他職員がサポートに努め、全職員一丸となり言葉かけに注意しながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の祭りに参加をしたり、行事以外にも常日頃から付き合いが多い。ホーム主催で、地元の公民館を借りて佐世保から演奏の方を招いて「尺八演奏会」を行い、その旨を地域に呼びかけており、多数の参加がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、再度実際の介護を振り返り、改善計画シートを作成し、全職員で見直す事でケアの意識向上へと繋げている。今回の自己評価においては早めに全職員で取り掛かり、調査当日も協力的であった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表・市役所・入居者の家族・民生委員の方々に参加して頂き、事業所の状況報告含め課題項目を挙げ活発な意見交換会が実施された。その結果、外部からの理解が深まり、火災訓練協力等、ケアサービス向上に活かされている。		

グループホーム イーハートープ

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当職員から相談を受けたり、逆にホーム側から相談(介護度の変更申請等)をする事もあり、積極的に情報提供や共有に取り組む連携体制が整っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1度請求時、それぞれの家族に利用者の写真をプリントし、状況報告を兼ね渡している。病院受診後には毎回、家族へ報告をし、忙しい家族へはメールで伝える工夫をし、要望等あれば伝え易い形をとっている。金銭管理は出納帳に家族確認(記名・日付)をし、確実に実施されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入り口に意見箱を設置し、苦情相談を気軽に求められる様「お願い…」と書く用紙を備えつけている。実際に苦情があれば書面で返答し、今後の運営に役立てようと取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員の異動、新人紹介はホームの新聞で知らせている。入居者へのダメージを防ぐ為に、引継ぎ等余裕を持って行う取り組みをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市連絡協議会主催の研修会に参加をし、その他の研修会にも参加して報告会を行っている。月1回施設全体の会議と、2週間に1度のグループホームのみの会議では、入居者の状態を細かく報告・検討する事で職員間の共有とレベルアップができています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会・介護支援専門連絡協議会の定例会参加や同業者との情報交換をし、その後ホーム内で講習を行うなどしてサービスの質の向上に役立つ取り組みを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	前もって見学に来て頂き、納得した上でのサービス利用を行えるよう支援している。馴染むのに時間がかかっても職員はゆとりの気持ちを持ち、「何時でもいいですよ、私達は居ます、待っています。」と安心できる接し方を心掛け、1対1の時間を少し持ちながら家族と相談し工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方に趣味・特技があればやり方を入居者から学ぶ事も多い。昔話を聞いたり料理の事を聞く等、支えあう環境を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族・知人からの情報収集に努めアセスメントシートに書き留め、ケア会議の際、検討を重ね共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	例えば麻痺が残っている入居者からは、今可能な限りの可動域訓練の要望がある等、家族と本人の意見と意思を確認した上で目標を立て、それぞれの立場からのアイデアを活かし介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価基準の項目を幾つか挙げ満足度・達成度・状態等を数値(1～5)に表している。月に1度は見直しのチェックを行い、6ヶ月経った時点で総合的に見直し、次に繋がる介護計画の改善に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・外泊の希望に応じ付き添いを行っている。入居者の家族の方の宿泊の希望があれば食事・寝具の提供も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関とは密接な関係で、通院と往診が実施されている。個別に受診ノートを設け記録をしている。次の受診日も書き記し状況報告を含め、その旨を家族に全て報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、本人・家族の要望を大切にした上でホーム側でも慎重に検討し、主治医との話し合いに努めている。計画作成担当者は、主治医からの指導を基に照会表を作成し連携を図っている。嘱託契約の医療機関があり、24時間対応が可能である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりのプライバシーを確保していく為に、全職員が言葉掛けには十分注意されている。個人情報の取り扱いも厳重である。しかし、外部の人に知らせる為の掲示がされていない。	○	地域密着型サービスは、地域に開かれ密着している。他の家族の方や外部からの来訪者にも個人情報保護を理解して頂くための対策として、秘密保持に関する書式を明確にし、入り口に掲示する等検討されることに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	地元の入居者であれば、散歩に出た際、自宅に立ち寄り仏様参りをして帰る等、希望に添うことによって、その日に応じたその人らしい暮らしの支援ができています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が同じものを一緒に食べ、楽しい雰囲気作りがなされている。献立が決まっても、入居者の希望があれば別に取り入れ、皮むき等手伝っていただく事もある。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に1日おきであるが、入りたい時に何時でも入る事ができる体制である。入浴拒否などあっても、職員がうまく調整している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の以前の職業・特技を活かし、一人ひとりにあった役割・楽しみが持てる様支援している。絵・着付け等入居者の様々な個性が窺える。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	商店街の中心部である為、買い物含め散歩が楽しめる。近所の人は顔馴染みで気軽に声を掛けて下さる。受診の帰りのドライブなど、一人ひとりにあわせた支援をしている。近くの海岸にお弁当を持参して出掛ける事もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアの開閉に反応するチャイムを取り付けたり、利用者が外出しようとする場合、さりげなく見守る等して職員間で取り組まれている。しかし、日中職員間に余裕がない場合、施錠に頼りがちである。	○	夜間帯の施錠は止むを得ないが併設施設の2階部分にグループホームがある為、日中の危険を防止するあまり、何気ない施錠が習慣化されていないか検討し、利用者のその日の状態を細かくキャッチするなど自由な暮らしの支援を期待する。
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防関係等外部の協力を積極的にホーム側から求め、年2回消防署立会いの火災訓練を行っている。その他2回ホーム内のみの訓練も実施している。利用者の不安を取り除く為に訓練にちなんだビデオを見てからの実施と、工夫が見られる。しかし、地震の訓練や備蓄には取り組まれていない。	○	今後、万が一の地震に備えた避難方法にも取り組まれることを期待する。地震時に考えられる火災も想定して再度消火器の使い方を職員間で再確認されていくことで自信に繋がると思われる。又、備蓄(衣類・備品・食料等)についても検討されることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックは毎日行い、必要であればその人に応じた支援をしている。併設施設の栄養士によりカロリー計算が行われ、1日の水分量は主治医の指導を受け、食事の残量もチェックして体調管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には日めくりカレンダーが掛けてあり、居室にもそれぞれ大きなカレンダーが掛けてある。季節感と安らぎを求める飾り付けがあり、違和感無く居心地よい雰囲気の工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みは個人差が出ているが、家族の写真を持ち込んだり、趣味に必要な物品の用意など、個々に使い慣れた物を持ち込んで居心地よい居室である。また、家庭的雰囲気作りに向け畳を思わせるフローリングにされている。		